

「JENESYS2.0」

中国大学生訪日団第15陣

訪問日程 平成26年11月4日（火）～11月11日（火）

1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国大学生訪日団第15陣96名が、11月4日から11月11日までの7泊8日の日程で来日しました。（団長：朱丹（シュ・タン）中国日本友好協会副秘書長）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、大学訪問など交流の場を通じて、日本の大学生や市民との親睦を深めたほか、日本の政治・経済・科学技術・社会・歴史・文化等が体感できるような施設や、地方都市の訪問を通じて、クールジャパンに直接触れ、日本に対する包括的な理解を深めました。

2 日程

11月4日（火）

成田国際空港より入国、皇居二重橋見学、オリエンテーション

11月5日（水）

共通：環境に優しい有機農業に関する講義

第1グループ 農学：東京農工大学農学部 訪問・交流

第2グループ 環境：東京大学 新領域創成科学研究科 訪問・交流

共通：歓迎会

11月6日（木）

共通：国会議事堂視察、東京タワー見学

第1グループ 農学：熊本県へ移動

第2グループ 環境：滋賀県へ移動、和風旅館での日本文化体験

11月7日（金）

第1グループ 農学：熊本県の農業に関する講義、東海大学農学部 訪問・交流、
和風旅館での日本文化体験

第2グループ 環境：滋賀県の環境保護に関する講義、立命館大学理工学部 訪問・交流

11月8日（土）

第1グループ 農学：阿蘇火山博物館見学、草千里見学、農村体験・ホームステイ（阿蘇市）

第2グループ 環境：琵琶湖オーパル視察（環境施設）、滋賀県立陶芸の森見学、
甲賀流忍術屋敷見学

11月9日（日）

第1グループ 農学：ホームステイ、熊本城見学、大阪府へ移動

第2グループ 環境：清水寺見学、二条城見学、日本文化体験（友禅染）、大阪府へ移動

11月10日（月）

商業施設視察、大阪ガス ガス科学館見学、歓送報告会

11月11日（火）

関西国際空港より帰国

3 写真

	
<p>11月4日 皇居二重橋 見学（東京都）</p>	<p>11月5日 環境に優しい有機農業に関する講義（東京都）</p>
<p>11月4日 参观皇居二重桥（东京都）</p>	<p>11月5日 绿色有机农业讲座（东京都）</p>
	
<p>11月5日 東京農工大学農学部 訪問・交流（東京都）</p>	<p>11月5日 東京大学 新領域創成科学研究科 訪問・交流（千葉県）</p>
<p>11月5日 东京农工大学农学部 访问交流</p>	<p>11月5日 东京大学新领域创成科学研究科 访问交流（千叶县）</p>
	
<p>11月5日 歓迎会 川田勉 外務省アジア大洋州局 中国・モンゴル第一課 地域調整官の歓迎の挨拶（東京都）</p>	<p>11月5日 歓迎会 日本の大学生との交流（東京都）</p>
<p>11月5日 欢迎会 外务省亚洲大洋州局中国・蒙古第一课 川田勉地域调整官致欢迎辞（东京都）</p>	<p>11月5日 欢迎会 与日本大学生交流（东京都）</p>

	
<p>11月6日 国会議事堂 視察（東京都）</p>	<p>11月6日 東京タワー 見学（東京都）</p>
<p>11月6日 考察国会议事堂（東京都）</p>	<p>11月6日 参观东京塔（東京都）</p>
	
<p>11月7日 熊本県の農業に関する講義 （熊本県）</p>	<p>11月7日 東海大学農学部 訪問・交流 （熊本県）</p>
<p>11月7日 熊本县政府农业讲座（熊本县）</p>	<p>11月7日 东海大学农学部 访问交流 （熊本县）</p>
	
<p>11月7日 滋賀県の環境保護に関する講義 （滋賀県）</p>	<p>11月7日 立命館大学理工学部 訪問・交流 （滋賀県）</p>
<p>11月7日 滋賀县政府环境讲座（滋贺县）</p>	<p>11月7日 立命馆大学理工学部 访问交流 （滋贺县）</p>

	
<p>11月8日 阿蘇火山博物館見学（熊本県）</p>	<p>11月8日 草千里見学（熊本県）</p>
<p>11月8日 参观阿苏火山博物馆（熊本县）</p>	<p>11月8日 参观草千里（熊本县）</p>
	
<p>11月8日 農村体験・ホームステイ （熊本県阿蘇市）</p>	<p>11月8日 琵琶湖オーパル視察（環境施設） （滋賀県）</p>
<p>11月8日 体验日本农村・家庭寄宿 （熊本县阿苏市）</p>	<p>11月8日 考察琵琶湖O'PAL（环境设施） （滋贺县）</p>
	
<p>11月8日 滋賀県立陶芸の森見学（滋賀県）</p>	<p>11月8日 甲賀流忍術屋敷見学（滋賀県）</p>
<p>11月8日 参观滋贺县立陶艺之森（滋贺县）</p>	<p>11月8日 参观甲贺流忍术屋（滋贺县）</p>

	
<p>11月9日 熊本城見学（熊本県）</p>	<p>11月9日 二条城見学（京都府）</p>
<p>11月9日 参观熊本城（熊本县）</p>	<p>11月9日 参观二条城（京都府）</p>
	
<p>11月9日 日本文化体験（友禅染） （京都府）</p>	<p>11月10日 大阪ガス ガス科学館見学 （大阪府）</p>
<p>11月9日 体验日本文化（友禅印染） （京都府）</p>	<p>11月10日 参观大阪煤气科学馆（大阪府）</p>
	
<p>11月10日 歓送報告会 朱丹団長の挨拶（大阪府）</p>	<p>11月10日 歓送報告会 訪日成果報告（大阪府）</p>
<p>11月10日 欢送报告会 朱丹团长致辞（大阪府）</p>	<p>11月10日 欢送报告会 团员汇报访日成果（大阪府）</p>

4 参加者の感想（抜粋）

○ (1) 最も印象深かった事：

私達大学生訪日団は2014年11月8日の午後、熊本県の阿蘇に到着し、その当日にホストファミリーに迎えられ、お宅へと向かった。車に乗ってだんだんと農村地域に入っていったが、農村でも道路などのインフラが完備されており、田畑の区画が集約されており、村の外観もとても清潔で美しく、地元の皆さんの教養や温かいおもてなしなど、どれも私を感動させるものだった。私は中国の農家出身だが、比べて見ると、中国と日本の農村の格差は非常に大きい。中国の農村の発展と繁栄は、農家の資質の向上にあり、特に農家の農業に対する情熱と、科学や文化の素養は謙虚に日本に学ぶべきである。私がお世話になったご家庭は5人家族で、おじいさん、おばあさん、その息子、お嫁さん、そして9歳のお孫さんが、楽しく和やかに一緒に住んでいらしかった。私がお一家の昔のことを尋ねた時、ご主人は「うちのおじいさんは日本の産業発展のエリートだよ」と話してくれた。ご主人は農業に数十年従事し、多くの栽培経験を積んでおり、かつてアメリカで3年間、農産物のビジネスを行ったこともあるそうだ。日本の農家は真面目で厳格で、農業を愛し、積極的に学び、経験を積んでいくという伝統があるそうで、科学や文化の素養と、仕事に情熱を持つという伝統が日本の農業政策とマッチし、ともに努力して農業発展を実現したそうだ。

(2) 伝えたい情報：

- ①日本の国土は風光明媚で自然環境が素晴らしく美しい。
- ②日本の都市建設計画とその管理水準は高く、都市の外観は清潔で完全に整っている。
- ③日本の国民は厳格で真面目であると同時に、熱意をもってもてなしてくれ、中国と友好を確立することを望んでいる。
- ④日本の農業は発達しており、コメは入念に丁寧に耕作され、味も香りも良く、食感が素晴らしい。農業の科学技術水準と農家の資質が高い。
- ⑤日本は国民の資質、特に科学技術と文化の教育を非常に重視しており、子供の頃から開始している。
- ⑥日本は経済の近代的発展と同時に、伝統文化の保護と伝承もとても重視している。

○ 今回の訪日で私達が非常に驚き、感動したことは、どれも日々の細かな事柄の中にあつた。例えば、ある場所から出発するとき、手を振ってお別れし、玄関で相手の姿が見えなくなるまで見送ってくれる。こうした礼儀は、中国ではめったに見られない。そのため、最初の頃、私達はこちらからも手を振ることを忘れがちだった。しかし、今思い返してみると、こうした行為の中に溢れているのは、無限の情熱と、別れがたいという気持ちである。日本にはこの一連の変えることのできない儀礼があり、まさにこうした温かさに溢れた一つ一つの行為が、この社会をいっそう人にやさしい場所になっている。

道路には多くの車が往来しているにも関わらず、静かで秩序正しい。クラクションは聞こえず、道を争うこともなく、まるでクラクションは装飾品かと錯覚させるほどである。静かさ、清潔さは、日本が人に与える最大の視覚的、聴覚的な体感である。町も、規則も、人々も、整然として秩序的だ。いつまでも歩行者に道を譲る車、農村の完備された施設、情熱的で誠意溢れる人々、青い空、澄んだ水、綺麗な空気、これこそが日本、私達が学ぶべき、手本とすべき日本だ。

帰国後、私が私の身近な人達に最も伝えたいことは、“百聞は一見に如かず”、日本は多面的だということだ。私達が理解したのは単に一面、あるいは一部分だけかもしれない。相手と触れ、意思を伝えることで、私達はやっと相手を理解できる。隣人同士の平和共存はとても重要だと伝えたい。日本は多くの面で私達の友人であり、先生でもある。“小異を残して大同につく”を基礎として、平和共存と協力交流を迫及することこそ、大局的方法である。

○ あの日、私は興奮と一抹の不安とともに初めて海外へ、日本へとやって来た。あの日、私は日本の青い空と白い雲に心を奪われ、日本側の入念な準備に感動し、日本への第一印象は素晴らしいものだった。今、7日間の研修の旅も終わりを迎え、心は名残惜しさに溢れている。いつの日かまた必ず来たい。

訪問した2か所の大学では、日本人は理論と実践を緊密に連携させていると感じた。特に東海大学農学部では、校内で地産地消が基本的に実現している。こうした教学方法は、おそらく中国ではほと

んど見られないだろう。東海大学での交流では、日本の大学生は比較的“自由”だと知ることができた。彼らは卒業後の就業を心配することがなく、仕事を探す際の両親の干渉もない。しかも、彼らの学生生活はとても楽しそうだった。滞在中、阿蘇火山博物館や大阪ガス ガス科学館で実験学習を体験したが、簡単な小さな実験で、普段の生活では学ぶことができない知識を与えてくれた。

最も忘れがたいのはホームステイだ。言葉は通じなくとも、心と心の交流が却ってこの経験をより忘れがたいものにしてくれた。今でも覚えているのは、お母さんが『中国語』という本を使って私達に夕食に食べたいものを聞いてくれた時のことだ。私達はそれを勘違いして、美味しそうな料理をいくつか指差した。すると、お母さんは私達が指差したすべての料理を作ってくれた。私達は中国語と身振り手振りで、寝巻きは必要ないと伝えたが、お母さんはそれでもわざわざ新しい寝巻きを用意してくれた。夕食後の交流はとても楽しく、皆で文字やスマホのアプリを使ってお互いの生活を紹介しあった。お父さんは言葉少なくとも、ずっと写真を撮ってくれていて、彼のデジカメに“偶然知り合った”中国の娘達の姿を記録してくれた。彼は「手紙をください、連絡を取り合いましょう」と何度も言ってくれた。ホストファミリーは最もシンプルな言葉、最もシンプルな行動で、私達への友好を語ってくれたのだ。

この日、ネットには次々と他の団員が今体験しているそれぞれの行動、風景、食事の様子がアップされてきた。

しかし、私が最も人々に伝えたい日本での驚愕は、経済の繁栄と科学技術の発達、国民資質の高さ、環境の美しさ、基礎教育の重視である。最も重要なのは、私が農村から来て農業を学ぶ一人の学生として、日本の農村の様子、農村のインフラ、農家の居住環境に強く衝撃を受けたということだ。私は、この点を私の周囲の人々に伝えていきたい。

○ 最も印象深かった事柄は、日本の教育水準の高さと国民の物事の処理方法である。教育面では、阿蘇火山博物館や大阪ガス ガス科学館で見た基礎教育の普及から、東京農工大学や東海大学の先進的なテクノロジーまで、どれも強い衝撃を受けた。日本がいかにしてこの数十年にこれほど迅速に進歩発展し、科学技術や文化面での人材を輩出してきたのか、その理由は日本の教育分野への大規模な投資と密接に関係があるということを実際に感じる事ができた。これは中国も大いに見習い学ぶべきである。私自身も努力を続け、さまざまな面において自らの総合的な資質を高めなければならない。文化の面では、日本人は厳格に秩序を守り、実践しようという意識が非常に高い。どのような事柄にもきちんと真面目に対応し、環境保護は非常に緻密に整えられている。物事の大小に関わりなく、どんなことにも完璧に十分に準備する。

帰国後は、日本での体験を家族や友人に伝え、皆で共に時間や秩序を守る意識を高めたい。自国の伝統文化を発揚し、同時に今後も先進的な技術や経験に学んでいくことが必要である。

○ 多くの旅行者にとって、近代的な都市で先進国の便利な生活を体験することは楽しみだ。しかし、異なる文化におけるその差異や独自性は、往々にして辺境地や弱者地域での異なる環境、つまり田舎において、より真実性をもってはっきりと見出せる。私が目にした農村は、計画的に一律に耕作区画されたものではなく、また、農耕地が大面積に集約されたものでもなかった。それなのに、環境は美しく、施設などは完備されていた。

大学は国家社会と文化発展の窓口である。東海大学と東京農工大学での交流は、交流をより深め、専心的なものにした。大都市における文明については、先進国間で大きな差異はないが、国民の集団意識の育成、農村環境、教育等においては日本の独自性が見られた。例えば、山河に対する敬意や人に対する尊重の表現、健康と自然の追求などは、それらに関する制度と教育方法に起因しているに違いないと思う。

○ 熊本県の地元農家でのホームステイ体験をした時、私達はあるご夫妻の家にお世話になった。ご夫妻はこれまでも数多くのホームステイを受け入れてきたが、外国人は私達が初めてだそうだ。言葉が通じないため、私達は身振り手振り、スマホの翻訳アプリで交流を行った。しかし、お二人の情熱と私達の努力の結果、私達はまったく障害を感じることなく交流することができた。とはいっても、私達はお互いに相手が何を言っているのかほとんど分からなかったが…。今考えてみると、まるで奇跡のようだが、これがいわゆる“以心伝心”というものだろう。

私の両親は長年、近代史を研究しており、母の主要研究テーマは抗日戦争史である。そのため、私は 20 世紀初頭の日本の歴史にとっても詳しいが、現代の日本の発展過程や様子についてはあまり理解していない。日本に来て初めて、日本の社会の様相は、中国人の全体的な印象の中にある日本の姿とは大きく異なることが分かった。現代化の水準にしても、国民の資質にしても、どれも私達を大きく驚かせるものだった。日本はすでに『菊と刀』にある日本ではなく、メディアやニュースで取り上げられる日本でもない、と私は言いたい。私達は認識を新たにする必要があるのであるのかも知れない。

○ 11 月 4 日から 11 月 10 日までの 7 日間の訪日プログラムで、東京・熊本・大阪の 3 都市を見学し、日本の発展と経済建設を直接見ただけでなく、日本の文化や国民のレベルをより理解し、体験することができた。

最も印象深いのは、日本人の真面目さ、慎重さ、責任感、時間意識、誠実さである。随行した日本の通訳さんは、毎回きちんと次の行程と訪問地の紹介や注意事項を皆に伝えてくれる。団員の一部に問題(遅刻、病気)が発生した時も、いつでもすばやく人員手配をして問題に対応し、どのプログラムでも一人の取りこぼしもない入念さである。時間を守る意識も極めて高く、毎回予定より早めの時間に集合を掛け、時間配分を厳密に計算していた。

さらに、ある事柄に私は衝撃を受けた。日本の商店のレジカウンターは通常、店内にあり、客は商品を選ぶと一人一人おとなしく会計の列に並ぶ。店内の状況からみれば、こっそり品物を盗んで出て行くことは簡単だ。しかし、誰もが自覚をもって信用を守っている。これは国民の道徳が最もよく表れている部分だ。

経済発展の格差を言うよりも、私はこの国民の資質教育とその向上に目を向けるべきだと思う。国の強大さ、文化、品格、信仰はどれも真っ先に攻められる重要な部分だ。“恥を知るは勇に近し”この言葉も、まったくその通りである。

○ 今回の訪日で最も印象深かったのは、日本人の普段の生活や仕事において滲み出る真面目さ、忍耐力、繊細さで、僅かなこともおろそかにしないことだ。今まで、書籍やインターネットの中だけに留まっていた日本の印象が、はっきりと現実のものとなったときの心の揺さぶられ方は、本当に大きかった。特に日本人の資質の面では、驚嘆したと同時に自らも改めて深く考えた。繁栄する東京、静かな熊本の田園風景、活発に発達した大阪。日中友好会館の温かいおもてなしと入念なご準備に心から感謝する。これらの場所で、数日間という限られた時間の中で、私達に最大限の配慮をしてくださった。

私の専攻は動物科学である。東京農工大学と東海大学の訪問では、先生や学生達との交流と同時に、日本は農業の面でも確実に先進的だということを知った。これまで多くの書籍で読んだ外国の農業の先進技術やその方法を、ついにこの目で確認し、驚いたと同時に日本の農業の発達に感慨を深めた。中国の農業の将来の発展空間は大きく、私達はまず先進国に学ぶ必要があると感じた。中国農業大学の学生として、私達には中国の農業の進歩を支える責任があり、中国も将来は日本のようになれると固く信じて、いっそう腰を据えて努力しなければならない。

帰国後、私は日本で目にした先進的な科学技術や卓越した国民の資質、進んだ教学の雰囲気や日本の風習などを先生や友人や家族に伝えたい。日本の進んだ部分に対して、私達はこれを学び、必ず向上するべく努力しなければならない。このほか、日本人の熱意溢れるおもてなしも深く印象に残った。これもまた、思い出に深く刻まれている。

忘れがたき旅路。一生の美しい思い出となるであろう。

○ 今回の訪日で最も印象に残ったのは、滋賀県で琵琶湖に関して視察や交流を行った 3 日間である。私の故郷は四川省西昌市で同じように淡水湖があり、邛海という。私はその湖畔で生まれ育ち、湖水が与えてくれる恩恵を痛切に感じて育った。そのため、私は滋賀県の人々の琵琶湖への愛情をより強く感じる事ができると信じている。アオコの発生によって彼らが尽くしてきた努力、全県民の無リン洗剤の使用呼びかけや、自発的な除去作業の様子などを見て、私は非常に感動した。しかし同時に、かすかに心配もある。私達が同様に行ったら、邛海は今と同じようにおだやかで美しくいられるだろうか？故郷の人々にもこれほどの環境意識があるだろうか？そのため、私はひそかに決心した。故郷の邛海であれ、現在生活している北京であれ、自分自身が最大の努力をして大切に、保護しよう。

日常生活や将来の学習や仕事でも、自国の環境保護事業に貢献したい。同時に、もし機会があれば日本に来て、今後も交流や学習を続けたい。日本の進んだ技術や意識を学び、両国国民の友好交流にわずかながらも貢献し、日本人の礼儀や友好はこれまで私達が考えていたよりはるかに素晴らしいと、中国の仲間に伝えたい。

○ 今回の訪日体験では、どのような小さな出来事からも、日本人の細かなこともおろそかにしない態度と礼儀の文化を知ることができた。例えば、参観場所に到着する前には必ず紹介の冊子が配られ、出発前には手を振って挨拶することなど挙げればきりが無いが、これらの他に、ある二つの事柄が私には深く印象に残った。

一つは、出発前の壮行会でも、来日後の歓迎会や歓送会でも、壇上で挨拶をされる先生方が必ず、「今回の訪日で見聞したことを皆さんの周りの方に伝えてください」と話されたことだ。この簡単な一言も、何度も重ねられると、中日関係はまだ緊張状態にあるが、多くの人々は両国が友情の橋を掛けることを望み、しかもそのために努力を重ねている、ということが十分に伝わる。私は、これは中日関係の健全な発展の重要な力になると信じている。日本にはまだ多くの中国に関するマイナス論調があるが、それは中国も同様である。しかし、相手を理解し、相手に自分を理解してもらうことを切に望めば、最後には誤解が解け、中日の関係正常化が実現する。

もう一つは、日本国民の責任感である。「環境にやさしい有機農業」の講義、滋賀県庁のブリーフや琵琶湖オーパルの環境学習で、環境対策の監督についての質問が何度も出たが、その答えは多くが「重要なのは人々の自覚である」ということだった。このことに、私は衝撃を受けた。日本は20世紀後期の発展の歴史の中で、“破壊からの再生”の時期を経験した。まさに自らの目で、自らの体験で、環境破壊によってもたらされた環境汚染という結果を知っているからこそ、国民も政府も非常に強い環境保護意識と責任感が築かれたのだ。だからこそ、国民も企業も、誰が監視しなくとも自発的に環境保護規定を遵守し、ひいては政府の対策より進んだ環境保護活動を行っているのだ。現在、中国も環境破壊の深刻な多くの地区では環境保護意識が高まっているが、日本の自覚のレベルに比べればまだ遠く及ばない。これには、より多くの、より強力な広報教育活動が必要であり、環境保護のために、確固たる一般大衆の基礎作りをする必要がある。

○ 日本の空は青く、琵琶湖は美しく、和食はおいしく、日本人の物事に取り組む姿勢は称賛に値する。時間はあっという間に目の前を行き過ぎ、わずか7日間の訪日で、私は大きく成長し、多くの収穫を得、多くのことを学んだ。環境保護の面で行っている貢献とその成果は、最も印象に残ったことだ。東京大学の環境システムと地下水の問題での研究考察、立命館大学での大気システム及び再生資源、エネルギーの利用とLCA評価などの面での成果、それから最後に視察した大阪ガス ガス科学館の環境にやさしいエネルギーである天然ガスの使用の素晴らしさ……すべての技術と理念が、深く私の心に刻まれた。先進的な環境保護理念と日本人の環境保護への重視の度合い、子供の頃から行う環境教育などを、友人や家族に伝え、中国の将来の若者達に影響を与えられることを、強く望んでいる。もちろん、最も重要なことは交流と意思疎通だと考える。原則を堅持する基礎の上で、人々の交流と協力を促進し、長所を生かして短所を補い、本当のウィンウィンを達成することに力を尽くしたい。考えることは山のようにあり、実行に移さねばならないこともたくさんある、しかし、すべての努力は決して無駄にはならない。北京も毎日1日中青空になることを願い、中日が相互交流し共に進歩するその日を待ち望んでいる。

○ 今回の訪日期間中、日本のスタッフの厳格な仕事への姿勢や強い時間の意識、温かいおもてなしなど、皆強い印象として残った。日本には澄んだきれいな空気があり、清潔な道路があり、秩序的な公共交通がある。日本の電車や新幹線は建設されて数十年も経っているが、いつまでもその機能を果たし、安全に運行している。日本人の仕事の姿勢や時間の意識は、現在の中国で強化しなければならないことであり、良好な時間の意識は、複雑な行程が順調に進行することを可能にする。

日本の学生も強く印象に残った。日本の学生は外国の学生との交流を楽しみ、同時に、自分の将来の専門分野の進路を分析することを厭わない。多くの学生の専門分野は技術応用の方面に向いており、それによって彼らの考える環境問題を解決しようとしている。私が交流した日本人学生は皆謙虚で穏やかで友好的で、情熱あふれる良い友達だ。現在、中日間にはいくつかの意見の相違があるが、私達は今後も多くの共通の関心問題について相互交流し、討論し、助け合うことができる。中国人は、機

会があればもっと全般的に日本を理解すべきであるし、日本人ももっと中国に行って最新の中国を理解すべきである。平等と相互信頼の基礎の上で、さまざまな形式の交流活動を進めることは、中日両国が平和に向かう上で助けとなるであろう。